

6. 小学校への接続

就学前教育において培われた子どもの育ちは、小学校とそれ以降の教育の基盤になるものです。

就学にあたっては、就学前教育から小学校教育への円滑な接続が必要です。そのためには、子どもの生活や発達¹の連続性を踏まえ、子ども同士の交流や保育教諭等・教職員同士の交流、情報の共有や相互理解など、互いに連携し合うことが必要となります。また、幼稚園・保育所・認定こども園を修了する子どもたちは、集団での生活を通して、友達と協力してやり遂げる達成感や充実感を持つとともに、年長児としての役割を担い、年少児を思いやり、また年少児からは尊敬されて、誇りと自信をもって卒園していきます。

このような子どもの育ちと保育教諭等が大切にしてきた取り組みを的確に伝え、小学校の教育に活用されることで、子どもの育ちが就学前教育から小学校教育へと円滑につながっていきます。

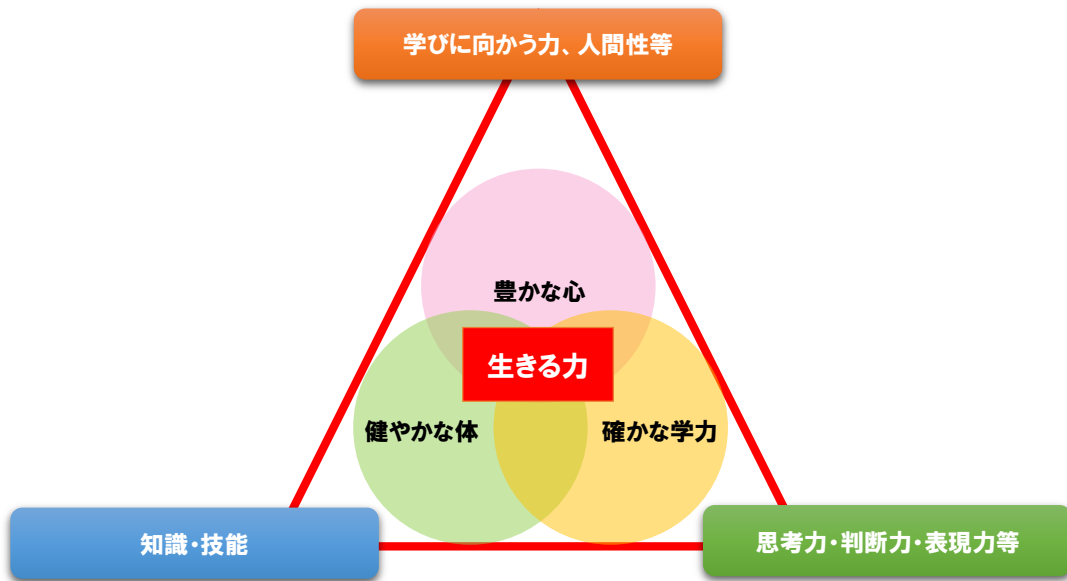
(1) 就学前教育から小学校教育への円滑な接続

就学前教育においては、乳幼児期の発達²の特性を踏まえ、それぞれの時期にふさわしい体験³が得られるよう、生活や遊びを通して総合的に教育及び保育に取り組んでいます。また、小学校低学年では、幼児期の教育を通じて身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ、児童の資質・能力を伸ばしていきます。

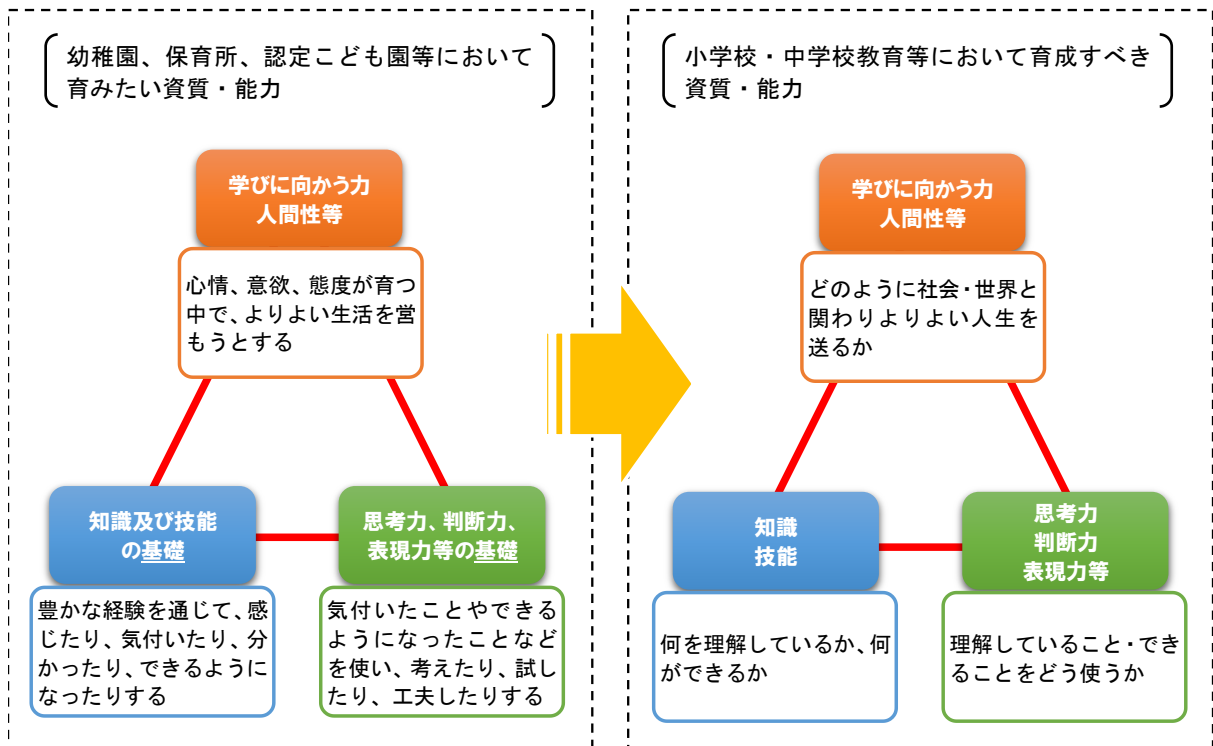
この就学前教育から小学校教育への接続を円滑にするため、新要領・指針では、小学校・中学校教育等につながるものとして、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の3つの柱を一体的に育むよう努めることが示されるとともに、平成29年3月に公示された新学習指導要領においても同様に、「育成すべき資質・能力」として、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱が明記されました。

さらに、新要領・指針は、幼稚園・保育所・認定こども園等の教育及び保育において育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、幼児期の教育を通して資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿を「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として示しつつ、小学校の教師との意見交換や合同研究の機会を設けるなかで共有することなどを求め、就学前教育から小学校教育への円滑な接続を図るよう努めるものとしています。

＜新学習指導要領の方向性「育成すべき資質・能力」～小学校・中学校教育等における3つの柱＞



＜「幼稚園、保育所、認定こども園等において育みたい資質・能力」と「小学校・中学校教育等において育成すべき資質・能力」の関係＞



<「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「小学校で育ってほしい姿」の関係>

健康な心と体

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 就学前教育・保育施設等における生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる。

小学校で育ってほしい姿

- 時間割を含めた生活の流れが分かるようになり、次の活動を考えて準備したりするなどの見通しを持って行動したり、安全に気を付けて登下校したりする姿
- 運動遊びや休み時間などに他の児童と一緒に楽しく過ごす姿

自立心

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

小学校で育ってほしい姿

- 自分でできることは自分でしようと積極的に取り組む姿
- 生活や学習での課題を自分のこととして受け止めて意欲的に取り組む姿
- 自分なりに考えて意見を言ったり、粘り強く取り組んだりする姿

協同性

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

小学校で育ってほしい姿

- 学級での集団生活の中で、目的に向かって自分の力を発揮しながら友達と協力する姿
- 様々な意見を交わす中で、新しい考えを生み出しながら工夫して取り組む姿

道徳性・規範意識の芽生え

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。
- きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

小学校で育ってほしい姿

- 初めて出会う人の中で、幼児期の経験を土台にして、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら、気持ちや行動を自律的に調整し、学校生活を楽しくしていこうとする姿

社会生活との関わり

幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿

- 家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。
- 就学前教育・保育施設等内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

小学校で育ってほしい姿

- 相手の状況や気持ちを考えながら、いろいろな人と関わることを楽しんだり、関心のあることについての情報に気づいて積極的に取り組んだりする姿
- 地域の行事や様々な文化に触れることを楽しんで興味や関心を深め、地域への親しみや学びの場を広げていく姿

思考力の芽生え

幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿

- 身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。
- 友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

小学校で育ってほしい姿

- 小学校で出会う新しい環境や教科等の学習に対して興味や関心を持って主体的に関わる姿

自然との関わり・生命尊重

幼児期の終わりまでに 育ってほしい姿

- 自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探求心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。
- 身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを意識するようになる。

小学校で育ってほしい姿

- 自然の事物や現象について関心を持ち、その理解を確かなものにしていく姿
- 生命あるものを大切に、生きることの素晴らしさの自覚を深める姿

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

小学校で育ってほしい姿

- 学習に関心を持って取り組み、実感を伴った理解をし、学んだことを日常生活の中で活用しようとする姿

言葉による伝え合い

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 保育教諭等や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

小学校で育ってほしい姿

- 友達と互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿
- 自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする姿

豊かな感性と表現

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

小学校で育ってほしい姿

- 音楽や図工、身体等による表現の基礎を身につけ、感性を働かせ表現することを楽しむ姿
- 臆することなく自信をもって表現し、学校生活を意欲的に進める姿

(2) 就学に向けての連携・交流等の取り組み

小学校に入学すると、環境が大きく変化します。子どもが体験する大きな変化を就学前と小学校の保育教諭等と教職員の双方が知ることが大切です。就学前教育は小学校の準備教育ではなく、小学校とそれに続く教育の基礎を培っているという重要性をしっかりと認識するとともに、小学校生活を知り視野に入れて取り組んでいくことが大切です。

本市の就学に向けての連携・交流の実態を把握し、今後の取り組み課題を見出すため、市内の幼稚園、保育所及び認定こども園を対象にアンケート調査を実施したところ、卒園を目前にした5歳児が小学校を訪れて行う交流や小学生が各施設を訪れて園児と行う交流、行事や交流会等の機会を活用した教職員と保育教諭等との情報交換を深める機会を持つといった取り組みを、個々の地域や施設間で様々な形で進められてきたことが伺えました。

このことから、今後さらに就学前教育の「遊びを通した総合的な学び」によって芽生え、育まれた「学びに向かう力」を、小学校教育以降の「学びに向かう力」へと円滑につなげていくためには、これまでの連携・交流で培われた経験を活かしつつ、公開保育や研究会等の機会をさらに活用し、就学前教育の取り組み方と小学校教育の指導方法の具体的な違いや、本市の子どもたちの現状を互いによく知り合い、どの様に接続していくことが望ましいのかを具体的に模索していくといった取り組みを追求していくことで、より一層、段差のない円滑な接続を目指していく必要があります。

また、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を手掛かりに、幼児期から児童期への発達の流れを理解し、就学前教育が小学校教育に円滑につながっていくために保育教諭等と小学校の教職員が発達の流れを相互に理解する研修などの取り組みも併せて実施していくことが大切です。

＜門真市内の幼稚園・保育所・認定こども園の小学校との交流・連携事例＞

① 小学校との交流事例 （5歳児と小学生の交流例）

事例

入学前の遊びの交流

- ・グループに分かれて：すごろく遊び・クイズ遊び
- ・校庭で：鬼ごっこ・固定遊具遊び・ボール遊び
- ・手作り遊具：輪投げ・ティッシュゲーム等の遊び
- ・触れ合い遊び：じゃんけん列車・もうじゅうがり

など

事例

授業体験・授業参観

- ・教室で椅子に座ったり、教科書を見たりして授業の雰囲気を経験する
- ・点結び・算数・文字・国語・ひらがな等の授業を参観
- ・机の整頓の仕方を知る

など

事例

学校行事への参加

- ・観劇会・給食交流会の参加
- ・運動会・夏祭りの参加
- ・オープンスクールに参加
- ・歌と合奏の発表や鍵盤ハーモニカの披露

など

② 小学校との交流事例 （その他の取り組み）

事例

- ・5年生が来園し、5歳児とゲームやドッジボール等集団遊びを楽しむ
- ・学校内案内
- ・夏休みに、児童クラブとの交流
- ・広域避難訓練（広域で指定している避難所まで移動する訓練）
- ・園外散歩等で通学路を知る

など

③ 教職員と保育教諭等の交流事例

事例

卒園児の授業参観等

- ・入学式や卒業式に参列
- ・行事やオープンスクール等を活用して卒園児の授業を参観

など

事例

就学前後に校區別交流会

- ・就学先小学校と、取り組み内容・園児の情報交換・申送り
- ・就学前の引継ぎ及び就学後の7月に1学期の姿を知る連絡会

など

【資料：幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との交流・連携アンケート（平成29年3月保育幼稚園課実施）】